

## 航空業界参入に向けて JIS Q 9100 を取得

ハードロック工業 株式会社

所在地：大阪府東大阪市川俣 1-6-24

設立年月：1974 年 4 月

トップマネジメント：代表取締役社長 若林 克彦

資本金：1,000 万円

売上高：-

対象人員：63 名

主要業務：HLN（ハードロックナット）

HLB（ハードロックベアリングナット）

SLN（スペースロックナット）

HLS（ハードロックセットスクリュー）

上記の製造及び販売（すべて特許商品）

適用規格：JIS Q 9100（品質マネジメントシステム－航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項／2011 年 9 月認証取得）

URL：<http://www.hardlock.co.jp/>

### <企業の概要>

ハードロック工業 株式会社は、1974 年の創業以来、HLN、HLB、SLN、HLS の製造及び販売を行っている。顧客要望を大切にしながら、技術開発、品質向上、コスト低減、納期短縮に、全社を挙げて取り組んでいる。そこには、すべてに安全を願う心と、安全を守ろうとする意志が込められている。確かな技術、厳格な品質チェックのもとに生まれた製品は、安全を守り、時代を築く縁の下の力持ちとして、幅広い分野で今や欠くことのできない重要なパーツとの評価を受けている。同社の製品は世界中のさまざまな分野で、40 年間以上に亘り、延べ 3 億個以上使われ続けている。

### <ISO と企業成長（導入時）>

#### ISO 9001 から JIS Q 9100 へ

同社は、JIS Q 9100（品質マネジメントシステム－航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項）を 2011 年に認証取得したが、その時点で既に ISO 9001 を取得して約 8 年が経過していた。ISO 9001 を取得した動機は、当時の取引先から取得の有無を問われることが多々あった点があり、さらに当時のクレームの大半が製品に対するものよりも、ヒューマンエラーに起因する誤発送等のケアレスミスが大半であったため、取引の必須事項ではなかったが、ビジネスをスムーズに行うためにも ISO 9001 を取得した。

取得当初は、外部要因で半ば仕方なく取得したという側面が強かったため、品質管理担当

が一人で書類等の整備を行う状態であった。そのような状態ではあったが、JIS Q 9100 取得することになり、それまでの審査での指摘事項に基づいて改善活動をコツコツと実施し、徐々にではあるが、品質保証体制が整った。また、組織立った動きができるようになるにつれて売上げも向上していった。

JIS Q 9100 の取得のきっかけとしては、2008 年に経済産業省の近畿経済産業局長の表敬訪問を受けたことにある。その訪問の真意は不明であったが、当時の経済産業大臣がボーイング社に対して、日本の優秀な企業の取引への参入を働きかけており、大臣のミッションを受けて日本全国の参入の可能性のある優秀な企業の選定を行っていた。この表敬訪問の際に、近畿経済産業局長より同社社長に航空業界への参入の打診があったことが、JIS Q 9100 取得のきっかけであった。

### **JIS Q 9100 取得へのチャレンジ**

まずは紹介されたセミナーに参加して航空業界の勉強からはじめた。その段階で想定していたレベルよりはるかに高い要求事項を求められることを認識したが、経済産業大臣肝いりのミッションでもあったので簡単に断念もできず悶々としていた。

そんな折、大阪科学技術センター（ATAC）による工場見学を受けた。その際、幸運にも航空業界に精通している、日本を代表するようなエンジニアの方を紹介いただき、これをきっかけにコンサルティングを依頼することになり、JIS Q 9100 の取得に向けて、スタートすることができた。

すでに ISO 9001 を認証取得していたが、社内での品質管理に対する意識もまだまだ低く、品質管理担当一人で運用しているような状態であった。そのため、JIS Q 9100 を取得することは、非常に高いハードルであった。幸いなことに取得前にボーイング社を訪問してプレゼンテーションする機会に恵まれ、先方にも製品を大変気に入られたことで、まずは JIS Q 9100 取得という方向に意識が向いた。

導入段階での課題はたくさんあったが、規格の要求事項に対応することで会社は良い方向に向かうという認識を持っていた。まずは組織の再構築から始まり検査項目の見直し、購買先の管理、トレーサビリティ、社内教育、現場の意識改革等、改善項目が多く、一からすべてやるような状況であった。月一回の品質会議を実施して少しずつ意識改革に努めた。また、不足していた検査機器等の先行投資も実施し、取得準備の段階で徐々に品質保証体制が整い、組織だった動きができるようになった。

## **< ISO と企業成長（組織の変化） >**

### **業務の変化と有効性**

2011 年に JIS Q 9100 取得して、すでに 5 年経過しているが、さまざまな面において成果があると感じている。その間に社内の意識も大きく変化して、全社員が経営に参加する素地ができつつあり、全社一丸となって計画を立案し実施できようになってきている。それにつれて、売上也右肩上がりに伸びている。

月 1 回の品質会議では、当初は会議に参加する意義や目的が理解されず、単なる報告会

になっていた。しかし、今では各プロセスにおいて PDCA の考え方の理解度が深まり、各部署が管理指標を設定して、クレーム件数の減少や生産性の向上、ロスコスト削減等のチェックを実施し、改善するための施策を議論できるようになった。この点は非常に大きな成果である。製品の品質もさることながら、人材の質も向上したと感じている。

組織がしっかりしてくるにつれて、新たな課題としては、マネジメントの力量を備えた人材の確保と育成の必要性が高まり、実際に外部からの積極的な採用も実施している。

## <認証機関の関わり>

### 認証の継続と審査への期待

審査を通して改善のヒントとなるような有効な指摘や、客観的な事実に基づく第三者からの指摘は非常に有効である。要求事項の高い航空、宇宙および防衛分野向けのマネジメントシステムである JIS Q 9100 を取得していることは、人材育成にも効果を発揮している。

ISO 9001 導入から JIS Q 9100 へ切り替え、売上も順調に伸びてきている。ISO 9001 の 2015 年版が発行され、経営方針との整合性やリスク面が強調されたことは管理者にとっては追い風であり、今後ますます経営方針と品質マネジメントの融合をはかり、さらなる飛躍の糧となることを期待している。

